

項目	目標達成の手段	自己評価		結果の考察・分析及び改善策等	学校関係者評価	学校関係者評価コメント	
		児童	総合評価				
つなげる力の育成	①発表する場の設定、充実	児童	3.3	3.3	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日々の授業や行事等で実践を積み、はきはきと発表できる場面が多く見られるようになった。1年生も経験を重ね、成長している。 ○ 年間を通して特別の教科道徳の授業は、オンラインによる合同授業(ユニット学習)を行った。児童は他校の友達の多様な価値観に触れ、自分の考えを深化できる機会が増えた。 ○ 今年度は特に、学校図書館の整備が進み、子どもたちにとって魅力ある場所となった。来年度は村の移動図書も活用し、よい本と意図的に出会わせる機会を増やしていく。 ○ 九州大学宮崎演習林施設を活用しての宿泊学習をはじめ、その他、村内の小学校と合同で修学旅行、集団宿泊学習を実施できた。釣りや稲作の栽培活動等の豊かな体験活動も行うことができた。1月のスキー体験は児童の体調不良者が急増し、中止した。来年度は是非、実施したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日頃、発表する場は大人数ではないので、なかなか張り合いもないが、オンラインによるユニット学習のお陰で、他校と話し合い、意見を出し合うことができていると思う。 ○ 読書活動を今のまま続けていただきたい。 ○ 体験活動もいろいろ行っていただき、子ども達に経験させてもらいたい。
		保護者	3.3				
		教職員	3.3				
	②道徳教育や児童指導、人権教育の充実	児童	3.7	3.4			
保護者		3.1					
教職員		3.3					
③読書活動の推進	児童	3.0	3.2				
	保護者	3.3					
	教職員	3.3					
④学校間連携や豊かな体験活動の実践	児童	3.8	3.7				
	保護者	3.6					
	教職員	3.8					
学び力の育成	①「分かった・できた」と実感できる授業の実践	児童	3.6	3.5	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 宮崎県が示している「ひなたの学び」を意識した授業を実践している。ユニット学習は道徳科(全学年)、社会科(4~6年生)で毎週、取り組んだ。椎葉村学は地域の人材を活用し、積極的に取り組むことができた。 ○ 昨年度と同様に、授業前後に立腰を意識した姿勢が定着している。話の聞き方や発表の仕方も良く、基本的な学習規律が身に付いている。家庭学習については、宿題の量や質を再考し、学校・児童・家庭で合意形成しながら本校の実態に応じたものにしていきたい。 ○ 国語(4年生)や理科(4~6年生)で複式指導の解消を行い、基礎学力の定着を図った。また、昨年度同様に、教育アプリ「キュビナ」を積極的に活用し、個別最適化の指導を行うことができた。 ○ 毎月の校内委員会を通して、職員の特別支援教育に関する理解や指導力の向上を図った。また、オンラインによる特別支援教育研修(エリア研)は全員で参加し、特別支援教育に関する学びや考え方を日常の指導に生かした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ タブレットも一人一台という時代なので、授業力も高まるのではないかと思う。 ○ 複式解消を教員や管理職と連携を図りながら行えていると思う。
		保護者	3.6				
		教職員	3.3				
	②学習規律の徹底と学習習慣の定着	児童	3.8	3.6			
保護者		3.6					
教職員		3.3					
③複式解消や個別指導の充実	児童	3.5	3.5				
	保護者	3.7					
	教職員	3.3					
④特別支援教育の充実	児童	3.6	3.5				
	保護者	3.3					
	教職員	3.6					
たくましい心と体の育成	①体力向上プランの完全実施	児童	4.0	3.4	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力向上プランの完全実施に向けて、導入時のサーキットトレーニングや休み時間等に活用できる遊具を使った運動の紹介などを行った。親子体力テストも実施し、意識の向上を図った。 ○ 今年度は性と人権をテーマとした学校保健委員会開催した。今回は親子で講話を聞いた。事後のアンケートからも保護者の性や人権に対する意識の高まりを感じた。 ○ 児童自ら食事のマナーや偏食等に気を付けた食事ができるようになってきている。「弁当の日」の取組も秋の遠足で行い、児童のそれぞれの力に応じた弁当作りを各家庭で実践していた。 ○ 避難訓練(火災)では地区の消防団に、土砂災害防止教室は西都土木事務所西米良駐在所の職員の皆様にご協力いただき、充実した内容で実施できた。これらの活動を通して、災害時における「自分の命は自分で守る」という危険予知と危険回避能力を身に付けることの大切さについて、意識付けをすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年が上がるにつれ、児童全員が体力もついてきて、体力テスト、陸上大会といった場面で活躍できている。 ○ 健康・食に関しては、学校・先生全員でいろいろ実践してもらっており、保護者・児童ともに勉強になっていると思う。 ○ 安全意識に関しては、消防団、西都土木事務所に協力していただき、児童も活動を通して身に付きつつあると思う。 ○ ノーメディアデーが今年は無くて、残念だった。
		保護者	3.0				
		教職員	3.3				
	②健康教育の充実	児童	3.8	3.6			
保護者		3.4					
教職員		3.5					
③食に関する指導の充実	児童	4.0	3.8				
	保護者	3.9					
	教職員	3.5					
④危険予知能力や危険回避能力の育成	児童	3.6	3.5				
	保護者	3.4					
	教職員	3.5					
家庭・地域との連携・協働	①地域を生かした学習の充実	児童	3.6	3.7	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「椎葉村学」では、しいたけのコマ打ちや臼太鼓、方言の指導等、大河内地区の方々の協力を得ながら充実した学習を行うことができた。また、地域人材の選考には、コーディネーター(集落支援員)に協力を仰ぎ、学校と地区との橋渡し役を担っていただき、大変助かった。 ○ 昨年度に続き、地区と合同の運動会や長距離走大会等を実施することができた。臼太鼓や神楽の伝承活動も、地域の方々にご協力をいただき、実施することができた。学校図書館の解放について周知方法について、検討していきたい。 ○ 運動会を始め、奉仕作業や米作り、クリスマスツリー作り、読み聞かせなど、様々な行事で地域の方から温かいご支援を頂いた。 ○ 学校運営協議会を計画的に実施し、学校運営に関しても地域の方々の意見を取り入れながら行うことができた。次年度も、学校運営協議会を核として地域の方々の参画意識を高めながら、学校運営を進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 椎葉村学での学びは、児童にとってよい学びができる学習だと思った。 ○ 地区合同運動会、臼太鼓、神楽といった地域と関わることが児童にとってよい経験になっていると思う。 ○ 大河内地区の方言の学習を地区の前で発表し、良かった。 ○ 臼太鼓や神楽の伝承活動も続けていて、大変嬉しく思う。
		保護者	4.0				
		教職員	3.5				
	②学校と家庭・地域の一体活動の充実	児童	4.0	3.8			
保護者		4.0					
教職員		3.5					
③地域の学校支援活動の充実	児童	3.9	3.8				
	保護者	3.9					
	教職員	3.5					
④地域から学校運営への参画促進	児童	4.0	3.8				
	保護者	3.9					
	教職員	3.5					